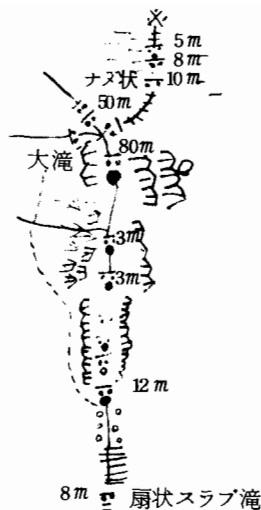


巻機山五十沢下の滝沢

79年9月23日 ~ 24日

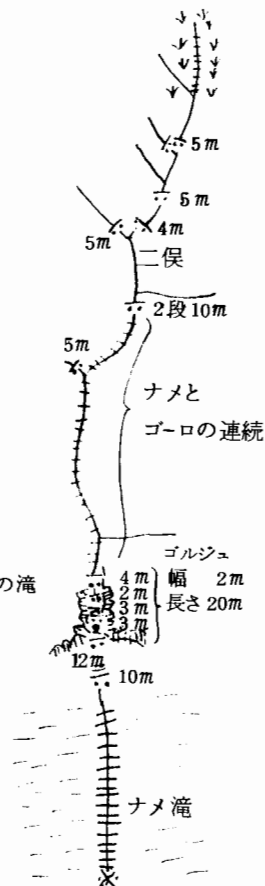


(編成) 上田中隆、野畑浩之

9月23日 (雨)

(行動内容) 雨が降っていたので、中止しようか迷ったが、結局、決行。四合目までの五十沢の眺めはすばらしい。大きなスラブ状の壁には、目を見はるものがあった。

(タイム) 小学校前9・35 四合目12・



9月24日 (雨)

(行動内容) 寝坊をしてしまったが、ここまで来た以上、決行あるのみと思い、

こきませられ、下にナメの連続を見て、急な岩稜を下降する。岩がクズクズで、結構緊張したクライムダウンをさせられた。

下降点から先も、これといった特長もたないツルツルのナメ滝が続き、ゴロ帯となる。悪い滝はなく、初めて滝の

こきまで来た以上、決行あるのみと思い、決る野畑さんを急がせてしまった。中出合から石滝の連続でかつた。中の滝沢と分かれてしばらくすると、すばらしい滝に立ちふさがれる。これが吹上の滝で、直登は、相当根性がいりそうだし、ボルトの必要性をこの沢の岩が示している。左壁に沿って高ま。やぶ

直登を楽しめた。特に、ゴロの終りにあるスラブ滝の登はんは最高で、幅広く流れている水の中に、小さなホールドを拾いながら、自分がR・メスナーにでもなつたかのように、喜々として登る。この上から、またゴルジュとなり、左手から高まぐ。

ここから大滝の中段まで高まぐのだが、かなりルートファインディングがむずかしい。小さく高まけばよかつたのだが、下段が大きいので、大高まきとなつてしまい、体力を消耗させられた。(実は中段まで草付バンドがあつた) 上段はナメ状なので、楽に右壁から越え、そこで昼食をとり、初めて休む。

上部はスラブで、今思い出しても、あきあきするような、かつたるい登りだつた。小さなゴルジュを越えると、うつつて変わつて、沢は穏やかになり、ピッチは上がる。本流をたどり稜線に出たころには、日暮れだつた。

(タイム) 出発 6・50 出合 7・05 大滝  
上 14・30 (15・00) 稜線 17・00 (17・30)  
清水 20・40